

乗雲

寺報
第84号

H24.6.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広厳寺
住職 神田英俊

メール

otera@kogonji.jp

人生三万日

五千日

満十三歳八ヶ月十日

一万日

満二十七歳四ヶ月二十日

一万五千日

満四十一歳二十五日

二万日

五十四歳九ヶ月五日

二万五千日

六十八歳五ヶ月十三日

三万日

八十二歳一ヶ月二十日

三万日を生きるための食事は一日三食、九万食。その量はおよそ百トン、水は五十メートルプール四杯半。人生の三分の一、二十七年は眠っている。トイレの時間はおよそ三年、睡眠とトイレを合わせると三十年。八十二年から三十年を引くと、ちゃんと生きている時間は五十二年。成人してからだと三十二年しか、どっしりしよう。

住職は今年還暦を迎えます。六十年生きたことになりました。人生三万日のうちの二万日を超えました。もはや一万日もありません。

道元禅師様に、「いたずらに過ぎす月日は多けれど、道を求むる時ぞ少なき」とのお示しがあります。が、六十年を振り返ると果たしてどういう生き方をしてきたか、修学、修行、住職して十六年、何をしてきたか、反省しきりです。そしてこれからの人生をどう生きて行くかが問題となります。

昨年暮れの間ドックで早期胃ガンが見つかりました。幸いにも内視鏡手術で摘出、術後の経過も良好です。どんなに長いいのちを願っていても身体を粗末にしているのはそれは望めません。せっかくこの世に授かった命です。還暦まで生きてこられたことに感謝し、これからも大切にしながら、仏法を伝えることが僧侶の使命と心得て精進していきたいと思っています。

曹洞宗管長・大本山永平寺貫首

福山諦法猊下の「おことば」の中に、

四摂法の利行（利他行）に基つき「向き合う 伝える 支えあう」「このことばをやらにすすめる。仏道は自らの利を思わずひたすら他のために尽くすことである。

また、臨済宗の松原泰道師は、針の先ほどのわずかな悪をも避け、針の穴に糸をとおすほどの小さな善をも積み他者につくすのが人間成就の正しい道だと教えています。

私たちはお袈裟を身に着けます。檀信徒の皆様は輪袈裟を着します。お袈裟は田んぼの形、農家の方たちは今が忙しい季節、この田んぼから秋には美味しいお米がとれる。お釈迦さまは仏教を信仰するものはみな、人々の心の田を耕し、幸せの実りを得るよう一生懸命、他のために尽くせと申されました。「生、老、病、死」の四苦を真摯に受け止め、一度きりの人生、かけがえのないこの生命、無常を観じながら、心をこめて仏道に精進いたしましょう。人生三万日！あなたは何万日ありますか？

平成二十四年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十三年
三回忌	平成二十二年
七回忌	平成十八年
十三回忌	平成十二年
十七回忌	平成八年
二十三回忌	平成二年
二十七回忌	昭和六十一年
三十三回忌	昭和五十五年
五十回忌	昭和三十八年
百回忌	大正二年

＊今年の年回忌のご案内は、昨年十二月に正当の各家に通知いたしております。
＊日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は九六年目が七回忌となる。